

団塊の世代と 2025 年問題の話

最近、音楽家の細野晴臣デビュー50周年を記念する展覧会と映画を続けて見る機会がありました。細野さんは昭和22年生まれの72歳。まさに団塊の世代です。細野さんと言えばYMOでの活躍が有名ですが、私の世代にとってはそればかりでなく、少年時代を彩った日本のあらゆる歌謡曲、アイドル、映画、笑いといったメディア全般で陰に陽に彼の影響を見ることができました。とくに細野さんのいたバンド「はっぴいえんど」とそのメンバーのその後の活躍は、今の日本のポピュラー音楽の礎と言っても過言ではありません。

ところで「団塊の世代」という言葉には定義があって、昭和22年から24年生まれのことを言うそうです。厚生労働省の人口動態統計によれば、この3年間の出生数は約806万人でした。最近においても2018年の人口推計で約625万6000人であり、全人口の約4.9%を占めています。団塊世代はその人口の多いことから、高校や大学を卒業しても地方では就職先がなく、多くの人が都会を目指して集団就職しました。そしてその後は同期の間における競争が非常に長く厳しい世代でもありました。田舎の貧しさや、地縁・血縁のしがらみから逃れる自由を得ながら、高度成長を支える働き手になり、大量生産・大量消費社会としての日本を作り上げた人々です。彼らの考え方は概ね保守的で、画一的であると言われています。

その一方で、社会正義や政治への関心が強い学生たちは過激な運動へも向かいました。彼らは戦前とは全く異なる価値観で育てられた第一世代であり、自分たちより前の世代にはお手本がないがゆえに、手探りのことも多かったでしょう。現在のように日本の社会が固まらず、何でもありの時代を生きてきた人々には、特有の存在感があります。そんな中、細野さんは、生まれも育ちも東京の真ん中で、ひたすら好きなことを追求してきた人です。敗戦と占領政策の恩恵として、自由を手にしたことが、彼の人生を決定づけたと言えます。最近、アメリカなどの古い音楽を今に蘇らせるような演奏活動をされています。その姿は、肩の力が抜けていて実にカッコいい。

さて、その団塊世代ですが、今も日本の社会を動かす存在あることに変わりはありません。今や彼らが大挙して後期高齢者に突入する時期を「2025年問題」と名付けて、国を挙げてあたかも大災害を迎え撃つかのような体制をとりつつあります。そういうと、どうしても相手を集団としてとらえてしまうのですが、実際のところ、細野さんの例を挙げるまでもなく、人それぞれです。一人ひとりにとってみれば、その人生の成り行きは一筋縄でなかったはず。

今や若い世代からは何かと揶揄されることさえある団塊の世代ですが、大勢で列車に乗

って都会を目指そうが、流行っていた長髪を切って会社員になろうが、音楽家になろうが、元から望んだか否かに関わらず、一人ひとり「そのように生きるしかない」人生を歩んできたのだと思います。一人ずつみな違う価値観や希望というものを、医療に反映させるための工夫にはきりがありません。そして私たちが後期高齢者になるときにも、敬意をもって受け入れられたいものです。たとえ細野さんのようにかっこよくはなくとも。こんな話が緩和ケアと関係あるかって？これまた大ありですよ。